

国際社会学部

歴史学

Historical Sciences



どのような学問か

地球上のすべての人々が、現在も過去も、日々何か事件を起こしています。そうした無数の出来事のうち、記録（記憶）に残されるものはごくごく一部の出来事です。それでも人類が記録を残し始めてから現在に至るまで、世界の至る所に、人々の行動、思想、表現の膨大な記録が文書や画像、音声や記憶として存在しています。歴史学という学問は、そのような記録を想像力豊かに、しかし科学的な手続きにしたがって読み解きながら、歴史社会の出来事を復元し、その背景や社会に及ぼした影響を考察し、出来事の意味を理解して叙述する学問です。解釈は一つだけではありません。新しい資料の発掘や、新しい解読の発見によって、全く異なる歴史像が現れます。過去の人々が辛うじて残した微かな痕跡を追跡し、その意味を明らかにすることで、人々の営みが忘却の淵から救い出されて、次の世代に引き継がれていくのです。高校世界史で学ぶ歴史はその結果のごく一部であり、学問としての歴史は新しい世界の姿を日々世に問うているのです。

外大の歴史学

国際社会学部のうち、地域社会研究コースに所属する多くの教員と現代世界論コースの教員の一部が歴史学を専門としています。研究地域は、フランス、イタリア、イギリス、ドイツ、ポーランド、チェコ、ロシアなどのヨーロッパから、中国や朝鮮の東アジア、インド、パキスタン、アフガニスタンなどの南アジア、中東、中央アジア、東南アジア、北米、オセアニアと、世界じゅうを網羅しています。時代も中世から近世、近代、現代とさまざまです。

そして、各研究者にはテーマ（主題）があります。政治や経済、文化の歴史のほか、動物史（動物と人との関わり）、感情史、ジェンダー史、建築や都市の歴史、宗教の歴史、子供の歴史など、実に多様なテーマを追究しています。

これほどまでに幅広い地域、時代、主題を研究する歴史学のスタッフを抱える本学は、日本でも屈指の歴史学大学と言えます。世界の諸地域が抱える問題を、現状の分析だけでなく、歴史的な地域の成り立ちや人々の関係をしっかりとおさえたうえで理解していく姿勢こそが、外大の歴史学の最大の特徴と言えるでしょう。

関連する授業一覧（2023年度）

- 歴史学入門（導入科目）
- 歴史資料体論（概論科目）
- 「周縁」から考えるグローバル・ヒストリー（概論科目）
- 地域基礎科目（各地域ごと）
- 上記教員の開講する専門講義、多数
- 「近現代南アジア研究—インド系移民・市民と多文化社会」
- 「モンゴル近現代史—中央ユーラシアの民族問題と近現代モンゴル」
- 「近世フランスにおける民衆の経験を考える—ルイ＝セバスチャン・メルシエの著作を手がかりに」

ゼミ

- 篠原琢、千葉敏之、小野寺拓也、伊東剛史、芹生尚子、小田原琳、巽由樹子、福嶋千穂、ルシオ デ ソウザ（ヨーロッパ）
- 倉田明子、藤井豪（東アジア）
- 登利谷正人、足立享祐（南アジア）
- 川本智史（中東）
- 青木雅浩、木村暁（中央アジア）
- 小田なら、左右田直規、菊池陽子（東南アジア）
- 大鳥 由香子（北米）

関連する学問分野

- 地域研究
- 美術史

おススメの本

- 『歴史とは何か』（E・H・カー／近藤和彦訳、岩波書店）
- 『歴史学の作法』（池上俊一、東京大学出版会）
- 『20世紀の歴史家たち』（刀水書房）